

日が少しずつ長くなり、三寒四温を感じる季節になりました。春が近づいてきているのを嬉しく感じる一方で、体調管理には気を遣う時期でもあります。みなさんも、睡眠や食生活、服の調整などで上手くこの時期を乗り越えましょうね。

今回は、極寒の地で暮らす動物……シロクマが登場します。ご紹介する本は、『死ぬまでに見たい！絶景のシロクマ』澤井聖一構成・文 エクスナレッジ 2015 です。近頃、天王寺動物園のシロクマが話題になっていますが、この本を見ると、自然界で暮らすシロクマはとても厳しい世界で生きていることがわかります！タイトルに“絶景”という言葉があるように写真がメインなのですが、それぞれの写真には解説がちゃんと付いてあって、目でも楽しめて知識も増やせます。例えば、シロクマが北極の中心にいない理由、シロクマの潜水時間はどれくらいなのか、などわかります。

私が最も驚いたことは、シロクマは冬眠をしないということ。夏は陸地で絶食に近い状態で過ごすシロクマにとって、むしろ、冬の間脂肪を蓄えなければならないのです。妊娠したメスのみ冬眠状態で巣ごもりをするそうです。また、シロクマのオスは子育てをせず、子グマを殺してしまうそうです。そのため、子グマと一緒にいるのは母グマなのだそうです。母親のシロクマは大変愛情深いことがこの本を見るとわかります。

写真では、白色のシロクマと、青色の氷河・オレンジ色の夕日・ピンク色の花・七色の虹などの美しいコントラストの景色が楽しめます。それぞれ写真が違う雰囲気なので、ページごとに色んな表情を見ることが出来ます。私事ですが、地理が好きで、地図を見るだけでもワクワクするタイプなのですが、北極圏のフィヨルド（氷河に侵食された谷に海水が入りこんでできた湾）など壮大な自然の写真を見るだけでも、なんだか暗れやかな気分になってしまいます。そこに真っ白のクマが写っていると、テンションが上がります（笑）特に、オススの写真が二つあります。一つ目は、p.94とp.95の木登りをしている子グマの写真です。あどけない表情でこっちを見ているのですが、よく見ると毛がフワフワしていて、とってもかわいいのでぜひ見てください。二つ目は、p.146～p.155のシロクマとシベリアンハスキー、カナディアン・エスキモー・ドッグがじゃれ合っている写真です。もともとは、シロクマが犬のゴハンの食べ残しを食べにきたのが始まりなのだそうです。おなかを空かせた状態であっても犬と遊ぶことができるシロクマもいるんだなあと、心温まる写真です。

地球温暖化によって、海氷が減り、シロクマのエサも少なくなっているようです。氷のない日も増えていっているのです。今後シロクマが絶滅してしまう恐れがあります。北極の食物連鎖の頂点にいるシロクマがいなくなってしまうと、生物のバランスが崩れてしまいます。人間によって自然界は壊されつつあり、早急に地球温暖化対策を実行しなければならないと改めて感じさせてくれる本でもあります。

